

# 第十三回フオト旬会優秀作品(11月15日)

<自由題>



雨催い  
恋の通り路  
紅葉散る  
矢澤正二

冬茜  
なぜか親父を  
思い出し  
中村晃也



平成と  
昭和の狭間  
ビザンチン  
三春

人前で  
訳あり組は  
顔隠す  
中村晃也



オト575寸評：

矢澤さん：濡れた飛び石に綺麗な紅葉が散っています。

恋の通り路とはロマンチック。ありし日を思ってたか？

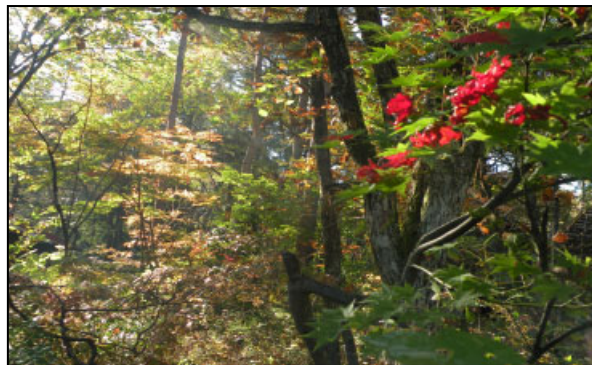
中村さん：こんな時しか思い出して貰えない親父になりたくない。

三春さん：ニコライ堂の写真ですね。平成と昭和の間にビザンチンを想到したのは中々のセンスです。

中村さん：画面後方の集団に着眼し、句に詠んだのが効いた。

<句付け>

11月のお題写真



照る葉よし落ちる葉もよし老いの境

大月 和彦

木漏れ日にぽっと恥らう秋乙女

上山 裕次

木々の中耳を澄ませば秋の音

上山 裕次

紅差した老いた役者の艶姿

三春

<寸評>

今月のお題写真は、大越さん出題の、秋の雑木林の風景でした。白馬岳山ろくに茸狩りに行った際のスナップです。

大月さん：静かな雑木林の佇まいに、諦めきった老人の心境が伺われます。（ご本人はそんな年齢ではないのに。）

上山さん：薄紅葉の林の中の一本だけの真っ赤な紅葉を捉えた。

上山さん：「耳を澄ませば秋の音」の措辞が洒落ています。

三春さん：下町の芝居小屋で見かけた老役者を想起した。若い頃に芝居に通い詰めたのでしょうか？

今回は、御題提供者が驚くほど多彩な句が集まりました。

一見とらえどころのない風景も、作者の心情によりいろいろな句ができます。自分独自の見方を心がけましょう。

次回のお題写真：提供は一席の大月さんにお願ひしました。